



令和元年 10 月 4 日

「大学と埋蔵文化財～キャンパスの遺跡・発見された文化財の魅力～」 広島大学総合博物館から発行されました

広島大学総合博物館が「大学と埋蔵文化財～キャンパスの遺跡・発見された文化財の魅力～」を発行しました。

昨年 11、12 月に本学総合博物館は、北海道大学から鹿児島大学まで、広島大学を含む国立 15 大学のキャンパス遺跡の紹介と、出土資料を展示した企画展を行いました。その際、パネル展示された各大学の情報を、15 大学が協力して読みやすく編集して冊子にまとめました。全国の大学埋蔵文化財調査部門の取り組みが一目で分かる、これまでに例のない冊子となっています。

冊子は A4 判、31 ページ。各大学における調査の様子やキャンパスを代表する出土品などの写真各 1 点を掲載。キャンパス遺跡の特徴と調査の歴史、また研究スタッフ計 44 人の最新の学術研究について紹介しています。

2000 部を発行。参加各大学に配布したほか、希望者に広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門で無料配布しています。また、送付先を明記の上、送料の切手 215 円分を下記問い合わせ先までお送りいただければ、郵送でも対応します。部数に限りがありますので、早めにお問い合わせいただければ幸いです。

【お問い合わせ先】

広島大学総合博物館 埋蔵文化財調査部門 担当：石丸恵利子
Tel : 082-424-6198 FAX : 082-422-7012
〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1 特高受変電所内
E-mail : hmaibun@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2 枚（本票含む）

大学と埋蔵文化財

～キャンパスの遺跡・発見された文化財の魅力～



2019

広島大学総合博物館

日本各地の大学の埋蔵文化財 9

大学と埋蔵文化財



広島大学総合博物館

■広島大学では、広島市から東広島市への統合移転に伴い、東広島地区で1978年以降行われた分布調査によって遺跡が発見され、1981年に統合移転埋蔵文化財調査委員会が設置されました。調査は前身の埋蔵文化財調査室が担い、2004年の大学独立以降は全キャンパスの埋蔵文化財調査に携わることとなり、2011年の総合博物館との合併によって現在の埋蔵文化財調査部門と改められました。現在までに、東広島市の東広島地区、西条三永地区、広島市の露地区、東千田地区、露地区、廿日市市の宮島地区、三原市の三原地区、竹原市の竹原地区において遺跡が確認されています。その中心となる東広島地区では31遺跡が発見されましたが、大学は文化財の大切さを理解しながらキャンパスの開発を進め、今も22遺跡が残されています。

■東広島地区では各時代の遺跡が発見されています。鴻の巣遺跡から出土したナイフ形石器や局部磨製石斧などの一群は、後期旧石器時代前半（約3万年前）のものと位置づけられ、西ガガラ遺跡第1地点出土の後期旧石器時代前半と中頃の資料と共に中国地方西部地域の属年基準資料となっています。

弥生時代の生活の痕跡は、鏡西谷遺跡や鴻の巣南遺跡などから発見されました。弥生中期から後期の土器や甕等の土器に加え、石鏡や砥石、祭祀に關係した道具とされる分銅形土製品や絵画土器も見つかっています。竪穴住居跡も多数検出され、一部は埋め戻して現地保存しています。

中世の遺跡としては、国史跡である中世鏡山城跡の南麓に位置する鏡西谷遺跡や鏡東谷遺跡などがあります。居館跡と考えられる掘立柱建物や墳墓が検出され、土師質土器の坪や皿に加えて、瓦器、中国産青磁碗、東播磨須恵器、亀山焼などが出土しています。

旧石器時代から中世・近世に至るまでの各時代の遺跡の存在は、西条盆地が人々にとって暮らしやすい場所だったことを物語っています。

■広島市内の露地区では、広島陸軍兵器補給廠（武器弾薬の倉庫）関連の煉瓦組の建物基礎やそれを地中で支える杭状列、軽便鉄道軌道跡、石組の樹や水路などが発見されました。東千田地区では広島高等師範学校の建物跡、露地区では旧制広島高等学校の宿舍跡などが確認されました。これらの地区からは防衛食器や統制食器、陸軍の軍用食器、病院食器などの近現代の歴史や文化を物語る特徴的な遺物が出土しています。

遺跡から出土した多様な資料は、埋蔵文化財調査部門の展示室で見学することができます。また、保存した遺跡は説明板を設置し、竪穴住居跡や須恵器窯跡を復元整備するなどして、遺跡巡りなどの教育普及活動を通して活用に使っています。

（石丸 恵利子）



鏡西谷遺跡遠景（南より）



陣が平西遺跡出土の須恵器

古墳時代の須恵器焼成窯跡2基や竪穴住居跡が発見された陣が平西遺跡から出土した坪釜、坪蓋、瓦葺、皿、鉢、甕、平、甕です。西条盆地では数少ない生産遺跡の資料で、広島県西部における古墳時代後期（6世紀後半～7世紀初頭）の属年基準資料となっています。